



年頭の辞

会長 三 神 美 和

全国の会員の皆様！ 新年おめでと
うございます。昨年はいろいろとお世
話になりました。有難うございました。
本年もどうぞよろしくお願い申上げま
す。

「一年の計は元旦にあり」とか申し
ますのでここに皆様と共に本年の計を
樹て、本年も大いに頑張りたいと存
じます。

計らずも昨年五月、会長の重責をお
受けして以来、日夜日本女医会のある
べき姿について考えて参りました。そ
して会員の皆様のご要望にこたえて、
何か仕事をしなければならぬために
は、会の組織を改めて、社団法人とし
なければならぬことに考え及び、そ
のこのために理事と評議員の方々
にご協議をお願いし、ご賛同をうること
になりました。このことは私にとりま
して本当にうれいこととございまし
た。社団法人として踏足するためには

新しく定款をつくらねばなりません。

それについて十一人の有能な会員が
選ばれて一生懸命にこの作成に当てら
れて居ります。会のため、ひいては社
会のためにご多忙の時間を割かれてこ
の作成をつづけて下さる定款選定委員
の先生方に心からお礼を申上げます。
きくところによりますと定款も大体

一月いっぱいではほぼ完成する予定で
すので、二月十一日を期して、臨時總會
を開催し、社団法人に改組する件なら
びに定款についてのご審議をお願いす
ることに致しました。お寒い時ではあ
りますが、全国の皆様方がたくさんご
出席下さいます様お願い申し上げます。

臨時總會で議題が決定されました
には、昨年末評議員の皆様にはお
届け申上げてあります日本女医会年金
制度に着手したいと考えてあります。こ
のことは会のためにも、また会員の皆
様のためにもなることと信じて居りま

臨時總會のご通知

酷寒の初、益々ご清寒のこととおよろこびを申し上げます。
さて昨春秋、社団法人日本女医会設立申請の件ならびに年金制度加入の
件につきご賛同を頂きました。

その際、五月の定時總會で審議決定するのではおそざる、できるだけ
早い時期にとの要請があり、その後定款委員をはじめ理事各位の熱心な協
議により左記の重要事項につき緊急に臨時總會を開催するはこびと相成り
ました。
お寒さの折またご多忙の中を大変恐縮に存じますがご出席頂き度くご案
内を申し上げます。

日時 昭和四十三年二月十一日(日) 午後一時より
場所 東京女子医科大学新講堂
議題 一 会費値上げの件

- 二 社団法人 日本女医会設立に関する件
- 1 社団法人日本女医会設立に関する件
- 2 定款認証に関する件
- 3 寄付財産に関する件
- 4 事業計画及び収支予算に関する件
- 5 役員選任に関する件
- 6 設立代表者選出に関する件
- 7 議事録署名人選任に関する件
- 三 年金制度加入の件 其の他

◎同封ハガキにて折返しご返信をお願いいたします。尚当日總會にご出席
の際同封の社団法人日本女医会定款草案をご持参願います。

出するだけ多くの皆様のご賛同に
よってよい結果のもたらされることを
心から望んで止みません。

会の運営資金が少しでも余裕が出来
ましたなら、会員の皆様からよいアイ
デアを出して頂いて日本女医会として
適切な仕事に着手したいと思ひます。
前会長竜先生のご構想である吉岡弥生
奨学金、日本女医会会員による優秀な研
究に対する助成金、社会に貢献した会

席を申込まれた方は四〇名にも達し、
会員の方々のご熱意にただ感激して居
ります。小野、山崎両女史の講演も國
際女医会本部の採択されることとな
り、両女史が日本女医会を代表して
百丈の気焔を吐いて下さることとしょ
う。日本女医会も漸く国際的に認めら
れて来たという感一入で、まことによ
ろこばしい事でありませぬ。この上は近
い将来にこの日本に国際女医会總會を
招致出来ませぬ様、一致協力してその実
現の出来る素地をつくりあげたいと思
わずにはおられません。

話が前後しましたが、五月十八、九日
に広島支部のお骨折りで、今年の日
本女医会總會が広島で開催されること
になりました。地元の皆様は、高辻支部長
を中心として早くから心を砕かれて、
宿泊のこと、観光のことなどまでブラ
ンニングをしておられます。世界で最
初に原子爆弾を落された地、私共の忘
れることの出来ない放射能影響の地
で行われる總會には医者である私共は是
非とも出席して、その多くの記念の品
々を目の当りに見なければならぬと思
ひます。出来るだけ多くの会員の
ご出席を希っております。

◆ 今年明治百年に当り、新年早々か
ら、明治、大正、昭和の比較や、日本
発展の歴史的回顧などがマスコミにと
りあげられております。

わが日本女医会も、会員に明治、大
正、昭和の各年代の方々を擁し、その

◆ 本年は国際女医会總會の開催される
年であります。六月二十三日から一週
間ウィーンで開かれます本會議にご出

歴史も日本の発展と共に歩んで参りました。

今年こそは、会員の総和で、親睦と相互扶助の実をあげ、日本女医学会の真価を發揮しようではありませんか、会員の皆様のご健闘を祈って新年のご挨拶と致します。

**総会・懇親
旅行についで**

広島県支部長
高辻マサエ

第十三回日本女医学会総会を招致することが昨年五月の東京ホテルニュー・オータニでの総会で決議されましたから広島県支部といたしましては事務局所在地、観光旅行予定等支部会員諸姉には連日連夜協議いたし、左記の通り決定いたしました。

全国各地よりお誘い合わせの上大勢の皆様がご参加下さるようお願い申し上げます。五月は観光シーズンでもあり、地方のこととてホテルも少ないことですので二月中には確実な予約申込みをいたさねばなりませんのでご返信を何卒よろしくお願い申し上げます。

日時：昭和四十三年五月十八日(土 旺日)。総会午後一時より懇親会午後五時より

会場：グランドホテル
広島市上八丁堀四ノ四
電話：広島四四五一八番

五月十九日(日旺日) 観光旅行

**宿泊一同ホテル 契約
観光旅行コース**

午前九時同ホテルよりバスにて市内観光(広島城、平和公園、比治山、原爆資料館その他)を見学して正午宮島口に出て昼食。船にて宮島に渡り同所観光、特に雅楽の演奏を依頼してありますのでこれを観賞の予定、尚時間がありますので、ゆっくり散

旧友との再会

—アメリカの女医学会第二五支部総会のことなど—

昨年の夏、七月中旬から九月末にかけて、およそ二ヶ月半にわたって、二度目の世界一周の旅をしました。表面の目的は、ミュンヘンでひらかれた第十三回国際皮膚科学会に出席すること、そのついでに各国の医学図書館を視察することになりましたが、結果としては十一年前の一九六六年にスイスのビュルゲンストックでひらかれた国際女医学会の総会に、当時米国女医学会長で、日本女医学会の国際女医学会を呼びかけに来日したこともあるエダ・クリー・リード女史の勧誘に応じて出席した際に、知己になった各国女医との旧友をあたためる旅にもなりました。

西独ではケルン郊外にウィマース女医の閑居を訪ね、スイスではチューリッヒの湖を見下す丘の上のグロス女医

策して頂いて再び船にて宮島口に戻りバスにて広島駅へ戻り午後四時半乃至五時解散。

以上

尚一日延長して山口県の錦帯橋、湯田温泉、秋芳洞等ゆっくり旅行を楽しみたい会員の方がございましたらお世話いたします故、ご希望を申込書にお書き添え下さるようお願いいたします。

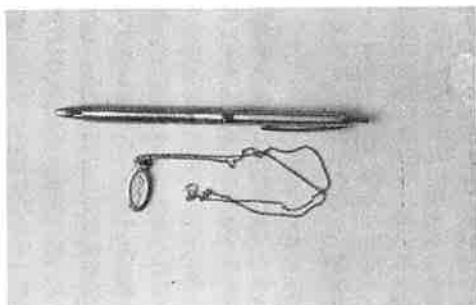
大原 一枝



「日本における天疱瘡の副腎皮質ホルモン療法」の講演中の筆者とその記事

の家へ招かれたほか、アメリカ各地では沢山の旧知の女医との友情を新らたにすることができました。どこでも心からの歓迎を受け、滞在した家ではお

顔を引っかいて逃げました。



アメリカ女医学会より贈られた記念のボールペンと会章ペンダント

客としてではなく、家族として遇されました。前回の欧州の旅行に、単に十日ほど同行しただけですのに、みんな心からうちとけて、本当に暖かくもてなしてくれました。反対に私が外国からの女医のお仲間をいれるとしても、とてもこんなには出来なれないと思いました。

リードさんは数年前メトロポリタン生命保険会社の要職を退いたのち、ニューヨークのコロンブスサークルにある世界の医師連合の事務所に無報酬で週一、二回、気が向くままに出勤して読み古しの雑誌を世界の医師から医師へ送る運動(Doctor to Doctor Program)の係りをしていました。日本の医師の方でご希望があれば専攻科名と希望の雑誌名を書いて、Dr. Ada Cree Reid, M. D. c/o The World Medical Association, 10 Columbus Circle, New York, N. Y. 10019 U. S. A宛御申込み下さいとのことですが、但し雑誌の入手は相当遅くなります。

リードさんのアパートは以前と同じ所で、ハドソン河畔のリバーサイド八十三丁目にあり、独身さんという令弟と、日本人の銀行員の下宿人との三人暮らしをしていました。リード家の部屋の様子や家具調度の類は全く旧態依然で、十一年前と同じハッピーという愛猫が十四才になって健在で居たほか、グーフィーという若い猫が家族の一員としてふえていました。しかし老猫のハッピーは私を忘れていたらしく、写真を撮ろうとして抱いたトタン、私の

ニューヨーク滞在中、アメリカ女医学会の大御所の一人で、アメリカカンメヂカルウイメンズホスピタルサーピスの会長であったドクター・ラブリジョイが九十八才の高令で亡くなり、その葬儀が行われました。私は当日図書館見学の約束があったので、葬儀には行けませんでした。百人近い女医が米各地から参列し、新聞にも彼女の追悼記事が載りました。この機関は、発足以来五十一年の歴史を有し、世界の国々へ女医の医療の手をさしのべる仕事をしており、日本にも関東大震災の際、米國パプテスト会の協力のもとに米國の女医と看護婦を派遣して深川に診療所を作ったことがあるとの事です(これは間もなく日本女医井上友女史にひきつがれて運営され、一九六二年迄つづいたことが米女医学会誌昨年八月号に出ています)。

モラニ女史は数回日本を訪れていまして、ロチェスターでひらかれた国際女医会に出席された三神会長以下の日本女医団の一行をフィラデルフィアでもてなした方なので、みなさんの中には御存じの方もいらっしゃる。彼女は形成外科医で、ペンシルヴァニア女子医大のクリニカルプロフェッサーの肩書をもち、国際女医会の副会長、アメリカ女医会第二十五支部長などのほか、前述のアメリカンウイメンズホスピタルサービスの会長に昨年の五月に就任した活動家です。

以前私が訪問した時は、御自慢の木造（アメリカでは木造はむしろぜいたくなこと建築なのです）の新築の家に住んでいましたが、今回は豪華なアパートに移っていました。聞けば二度もピストル強盗にはいられ、物質的損害のみならず大きな恐怖の打撃をうけ遂に家を売りアパートに移ったとのことでした。

フィラデルフィアでの十日の滞在期間中の私のスケジュールは全くギンギンと組んであり、公的なものは女子医大の歓迎パーティー、私的なものとしては、モラニ家での私の歓迎パーティー、それに招かれて来た他の女医の家での返礼のガーデンパーティー、女子医大の前学長フェイ女史の夕食招待、テンブル大の生理学名誉教授のグライスハイマー女史の昼食招待など本当に大忙がして、アメリカ人は何とパーティー好きだろうとあきれてしまいました。社交的な場があんまり好きでない

上、英語の会話に苦勞する私にとつては、あまりありがたくないおつき合いでしたが、アメリカ女医の生活習慣や氣質を知るには又とない機会でした。

フィラデルフィア滞在中、八月二十三日に米国女医会第二十五支部の總會がペン大（女子医大ではない）の助教のドクターウッドの宅でひらかれたの出席しました。午後八時からという事で、夕食をすませた後モラニ教授の車で郊外のウッドさん宅に着きました。先づ同女医と三人のよくしつけられた令嬢の挨拶に迎えられ、次で二匹の猫、六匹の犬に紹介され、動物の多いの目を丸くすると、未だ小鳥もいますよとの事に、さすがの動物好きの私も吃驚しました。

思い思いのものをもらって待っているうち、ボツボツ二十才代の若い女医から、七十六才になる旧知の生理学者のグライスハイマー女史まで、総勢二十人余りの会員が集まりましたが、中にはリウマチで椅子に腰かけられないような人もいました。

今は先づ開会のあいさつに次いでモラニ教授の「鉄のカーテンの裏側の医学」と題する、東ベルリン、ソ連、ユーゴスラヴィアなどの旅行談を基にした講演が、美しい百枚ばかりのスライドと共に行われました。それによりまずと先づソ連の女医の数は十年前の75%に比べて一九六七年では62%に低下したこと、女医の初診料六ドルに対して男医のそれは八ドルであること、医学教育機関は85校で、六年制であること、教

育内容は医学の全体をカバーしていないこと、医学は特殊の分野においては非常に進んでいるが、全体の水準は高くないこと等々、アメリカ女医の観たソビエト医学ないし医療についての印象を披露しました。

その後型のごとく庶務会計報告と議事が行われました。内容は日本女医会とはほぼ同様で、新会員の獲得法、後進の女医学生に対する奨学金の額（一〇〇ドルという比較的小額にきまりました）、總會の開催時期、如何にしたら出席率がよくなるか等々でした。私は会のはじまる前に個人個人に簡単に紹介されましたので、それで終りだと思っていましたところ、会の終りに正式にモラニ会長から、一同に紹介されたのち、アメリカ女医会の名の入った記念の金色のボールペンと、会章がデザインされたペンダントを、第二十五支部の名において贈呈される破目になりました。拍手が湧いたので立上らざるを得なくなり、勇気をふるってお礼の言葉を述べ、序でに毎月理事会をひらいている日本の女医会の活発な現状をPRしておきました。そのあと、コーヒートとケーキが出て歓談して散会しました。会のやり方を見て感じたことは、個人宅で開かれたので非常に親密な感じがもてたことですが、客間のない日本の家では真似られないと思ひました。フィラ滞在中にペン大の皮膚科のクリグマン教授の夫人でハーネマン大産婦人科のトロイアン女医が私を訪ねて来ました。モラニさんがこの人の

名を知らないので尋ねたところ、この人は米国女医会に加入して居らないとのことでした。つまり米国でも女医会に未加入の女医が相当あるわけですね。加入者の多い点では日本女医会の方が米国女医会より優れているのではないかと思います。

アメリカ女医会会長のマッグルー女史にも、彼女がシカゴからモラニさんのアパートへ訪問の際に会いました。彼女は癌の細胞診の大家パニコローの高弟で、病理学者としても有名です。ワシントンでは長年 J. of Inv. Dermatolgy の編集主任をつとめ最近辞任したネオミ、ケノフ女史に再会しているのに驚いたり、シカゴやデトロイトでも旧友の女医に肉身を遇するにも似たあたたかいかもてなしをうけ、全く国境を忘れて了いました。

友情には国境はないのです。しかも女医という共通の職業をもつ同僚として、我々がかたい友情で結ばれている

のでしょうか。二度目の世界旅行で、ジェット機のスピードによって世界がせまくなっただけでなく、「世界は一つ」だと思ひました。また女医に限らず、各地の大学を訪ねた際に皮膚科医たちが、同僚という親近感からか、大変親切にしてくれましたので、国境などという政治的な垣根を忘れそうでした。

旅行の余韻が私の胸に未だ残っている年末に、各国の友から、次のウィーンの国際女医会で会いましょうと書かれた美しいクリスマスカードが次々とどきました。リードさんからは Happy (猫)、Goolie (猫) and Adam (第4人) Send you greetings also. と、猫好きのリードさんらしい書き出しで、モラニさんからは日本の会員のみなさんよろしくと書き添えてありました。お正月は年賀状を書くことに明け暮れし、この頃はこれらの友人たちからの手紙に返事を出す仕事が沢山たまって、いささか苦になっている現状です。 (一月十日記)

ささやかな私の願い

——乳児院開設十五年の歩みを顧みて——

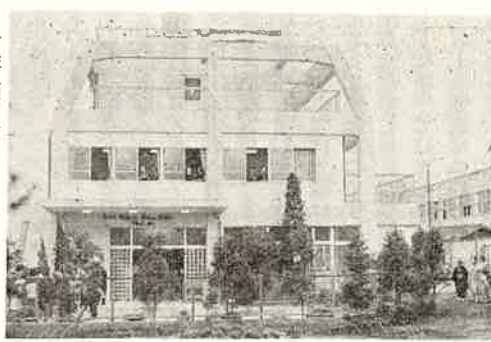
社会福祉法人育秀会乳児院 阿部 秀世

戦後の混乱の中で燃え上った私のささやかな願い、それは薄幸な乳幼児を守り育てることでした。顧みますと、戦前戦後を通じて結核が猖獗を極めまし

た頃、私は恩師吉岡弥生先生によって創設されました東京結核予防婦人会のメンバーとして、当時最も盲点に置かれていた、家庭に於ける母と子の結核

予防、早期発見及び治療面等で、色々
と困難なそして非惨な問題に遭遇しま
した。

病におかされながら、家事に追われ
病床にたおれる母親、又乳児をかかえ
て病床に呻吟しながら、入院の手だて
もつかない母親等、見るに忍びないも
のは大変多く、当時私共は、国立療養
所に母子ベットをもうけて貰う等、色
々と努力いたしました。が乳幼児結核の
死亡率の高い点を考え、結核の母親か
ら乳児を未感染のうちに隔離し、よい
環境のもとで健全に保育し、その間母
親には療養生活を安心してさせなけれ
ばならないことを痛感しました。



→(新築落成した育秀会乳児院)

しかしながら、戦争による社会生活
の激変と混乱の中で、当時数少なかっ
た乳児院は、社会的経済的理由による
乳児で満床の状態でした。それで私は

微力をかえりみず、昭和二十七年よ
うやく乳児院の建設にふみきったので
す。当時は何れからのご支援も得られ
なかったのですが、幸い今は亡き私の
母のよき理解と協力を得まして、ささ
やかながら五十床収容の乳児院を建設
することが出来ました。

しかし、創立当時は社会の理解も
すく、他に協力者を求めることも至難
で、薄幸な乳幼児に対する施設として
は、日本赤十字社および済生会乳児院、
その他宗教団体により設立されたもの
も数少く、更に個人よって設立された
ものは極めて少数を数えるのみで、世
の多くの人々には、児童憲章すら認識
されていない状態の中にあり、正に苦
難の道でした。その間精神的に肉体的
に又経済的に数多の困難を克服しつつ
保育した乳児は延約二十万六千余名
で、これら乳児は、健康を回復した父
母のもとに復帰させた者、孤児として
育て愛の家庭に養子縁組させた者、乳
児から健康に成長更に養護施設に送っ
た者、その他経済的に立ち直った家庭
引取りも数多くありました。その間天
皇陛下より事業奨励の思召しにより、
三回にわたりご賜金を拝領し、感激を
新たに更に薄幸な乳児の愛育に努力し
てまいりました。

幸い十数年色々困難を経験克服し
ながら、関係諸先輩のご指導と職員の
献身的努力と次第に理解の深まる世の
人々の、直接間接のご協力によって、
今日ありますことを感謝いたしており
ます。

医学の進歩により、結核家庭の減少
は誠によるこぼしい時代となりました
が、時代とともに変化してまいりませ
ぬ理由により、保育環境に恵まれない数
多くの薄幸な子供達に比べますと、現
在乳児院で保育されている子供は、未
だ未だそのわずかな一部に過ぎませ
ぬので、広く世の人々に理解と認識を深
め、今後更にこの施設を理想的に生か
し、不幸な子供をこの世の中から一人
でも少くしなければならぬと願
たしてまいります。

この様に、当時木造モルタル建
築で発足した乳児院を、不燃性建築に
したいと念願しつつあったことがよう
く実現し、昨年六月七日、社会福祉に
深いご理解を持たれる秩父宮妃殿下を
お迎えて落成式を挙げる事が出来
御懇切な数々のお言葉を頂戴いたしま
した。又十月には常陸宮妃殿下の御視
察を仰ぎ色々とお励ましのお言葉を頂
戴いたす等ご懇情に接し従事者一同
感激も新に日々の精進を続けておりま
す。しかし、社会福祉の仕事は一人
ですることの困難さ、十五年の歩み
の中で幾度か挫折しようとしながら、発
足の日恩師吉岡弥生先生から頂いた励
ましの言葉を胸に、また、母のよき理
解と協力を得て今日に至りました。こ
の度の建築に当っては、国庫および東
京都より一部助成金を受け、また、共
同募金会、郵政省よりご支援を得まし
たが、多額の借入金により鉄筋三階建

延一、一〇〇平方メートル、二階が乳児
保育室で一部管理部門に当て、三階は
すべて保育者の宿舎となっています。
収容定員は一〇〇名を目標とし敷地
総面積一、八〇〇平方メートル、庭には
プール、砂場、花壇など作り、子供達の
運動の場も広く、よい環境に所在して
おります。しかし社会の多くの人々に
は、未だ児童憲章や乳児院に対する認
識が浅く、また、開業の先生方からも
色々とお問い合わせがありますので、こ
の際理解を深めて頂きたいと存じま
す。現在の乳児院は設備も完備し、医
師、薬剤師、栄養士、看護婦、保育
X線技師、その他雇員(洗濯係、掃
除係、炊事係等)によつて、よい環境
のもとで健全育成をはかる場所、昔
のいわゆる孤児院の存在とは全く違
うものです。

収容対象は健康な乳児で、医学的理
由や経済的理由により、よい保育環境
に恵まれない乳児
①両親のいずれかが病気で適当な保
育者のない場合
②結核家庭の未感染乳児
③両親のいずれかが死亡、あるいは
失踪、離婚等で保育困難な場合
④経済的理由で両親共に働かねばな
らぬ場合
⑤捨子、置きざり等

この様な諸事情で保育困難な場合
は、各地区に所在する児童相談所ある
いは福祉事務所の児童福祉司に事情を
申出ると、児童福祉法の適応によつ
て、乳児院に入所の措置手続をしてく

れます。その際、入院経費負担額は各
々収入に応じて決定されますが、国庫
及び都道府県から援助がありますので
有料等に比べますと極めて少額です。
また経済的に恵まれていない場合でも、
前記の様事情の際は勿論適応となり
ます。また子供を恵まない方で、赤
ちゃんを貰いたい人も沢山あります。
このような人は児童相談所に申出で
登録をしておけば、適当な赤ちゃんを
養子に貰うことが出来ます。

当院でも沢山の乳幼児を養子縁組さ
せ、幸せに愛の家庭に育てられていま
す。しかしまだ新聞紙などで捨子や
置きざり、乳幼児虐待、親子心中等非
惨な社会問題が根絶されないのは嘆か
わしいことです。

私共は医師として、また社会人とし
て、広く世の人の理解を求め、戦後福
祉国家として大きく成長した日本国民
の一人ひとりが幸せになるよう努力し
なければならぬと考えております。
また施設を通じて社会の人々に、児童
福祉および社会福祉のための考え方や
実行について認識を深め、福祉国家へ
の一助ともなり、施設の責任を果した
いものと念願いたしております。

昭和四十三年一月十日 日印刷
昭和四十三年一月二十五日 発行
編集人 森 千 鶴
発行人 日本女医学会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
印刷所 東京都港区麻布田島町63
興栄美術印刷株式会社
題字 吉岡 弥生